

別記様式

第2回米原市行財政改革市民会議 会議録（要点筆記）

会 議 名	第2回米原市行財政改革市民会議
開 催 日 時	2024年12月25日（水） 午後2時00分～午後3時30分
開 催 場 所	米原市役所本庁舎 会議室3-A
出席者および欠席者	出席者 委員：横山座長、壬生副座長、佐々木委員、清水（和人）委員、清水（元幾）委員、藤本委員 米原市：川瀬政策推進部長、（以下政策推進課）松村課長、 萬木課長補佐、伊賀並主幹、田野主査、鈴木主事 （以下デジタル未来推進課）川西課長、渡邊主査 （以下総務課）吉井課長補佐
議 題	米原市行政経営改革プラン（案）について
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	市の目指す本プランの方向性についておおむね了承を得たが、基本理念および進捗管理指標について一部課題を指摘されたため、各委員の意見および市内部で調整の上、検討を進め、年度内の策定を目指す。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） 座長	<p>1 開 会</p> <p>2 本日の会議目的について</p> <p>3 議事（米原市行政経営改革プラン（案）について） <資料1、資料2、参考資料に基づき事務局より説明></p> <ul style="list-style-type: none"> ・10ページ「業務の改革」の進捗管理指標が、市民意識調査の満足度、13ページ「働きがいのある職場環境づくり」の進捗管理指標が、職員のアンケート調査結果に基づく数値となっているが、主観的な進捗管理指標は極力避けるべきである。また、端的に分かるような進捗管理指標とするべきである。 ・16ページ「情報通信技術を活用した組織文化の改革」の進捗管理指標である「コンビニ交付率」について、「らくらく窓口交付サービス」を含まない意図が不明であり市民にも分かりにくい。 ・17ページ「誰一人取り残さないデジタル化の推進」の進捗管理指標の「通知書類のデジタル化」について、紙を減らすことが大事なのは理解

	<p>するが、「減らす」ことを進捗管理指標とすると、マイナスのイメージを持たれるおそれがある。今、紙ベースで通知しているものを、デジタル化した数などの方がプラスのイメージになる。同じ内容でも、表現を変えた方がいい。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5 ページの基本理念では、「財政の健全化」についても記載すべきだと思う。 ・ 計画期間は5年が原則なのか。3年でもいいのか。5年だと、検証までの期間が長すぎるように思う。また、市民会議は1年ごとに開くのか。
<p>(事務局)</p>	<p>→計画期間は特段のルールはないが、過去の大綱を参考に5年としている。現時点では、1年ごとに市民会議を開催する予定である。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度ごとに進捗管理指標の目標値があれば、評価しやすい。 ・ 目標値は、第4次大綱と比較して具体的になっておりいいと思う。 ・ 進捗管理指標の難易度も示してはどうか。難易度が高いものは、達成度が低くても、一定の評価をすることもできる。
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで、「行財政改革」だったものを「行政経営改革」としたことについて、「経営」という言葉に財政の意味が含まれることは理解するが、財政は重要な要素であり、表現としてなくなると財政の部分が弱まったように感じる。 ・ 本プランは5年間の計画期間であるが、総合計画との整合性はとれるのか。
<p>(事務局)</p>	<p>→本プランが総合計画より先に策定されるので、総合計画の策定過程で本プランの内容を加味しながら計画策定を進めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本プラン推進時には、職員一人一人のやる気が重要である。職員の意識を変えて、行動を変えないといけない。 ・ 基本方針1で「職員の意識改革と働き方改革」を掲げているが、職員にしっかりこの方針を理解してもらう必要がある。 ・ 共感することが大事であり、共感することによって職員の行動が変わる。まず、職員の見解を合わせる必要がある。 ・ 進捗管理指標の目標がどの程度の難易度なのかが伝わりにくい。例えば、経常収支比率について、目標値が87.7%となっているが、これは難しいのか。

(事務局)	→経常収支比率を維持することは厳しい目標設定である。なお令和5年度は、米原市が県内の市の中で最も経常収支比率が良かった。
委員	・経常収支比率が87.7%であれば、ある程度米原市の持続可能性が見えるのか。
(事務局)	→すぐに答えが出るものではないが、積み重ねによって良くなっていくと考えている。また、職員が自発的に考える仕組みづくりとして、部局別未来投資枠等を導入することとした。
委員	・職員の適正人数等を進捗管理指標とするのはどうか。また、本プランは職員数を維持した中での計画なのか。自然減の部分と新規採用の部分をもどのようにバランスを取るのか。
(事務局)	→職員の人数については米原市定員適正化計画を定めて、公表している。本プランと連動性を持たせることが重要だと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗管理指標について、活動指標と成果指標がある。 ・成果がでなかったとしても、活動をしたが成果がでなかったのか、活動をしなかったから成果がなかったのか等を検証できるようにする必要がある。 ・振り返りをする際は、現場の職員が何をしているのか分かるようにする必要がある。 ・11ページ「人財育成と職員の意識改革」について、ワークエンゲージメントとウェルビーイングの進捗管理指標が「時間外労働の削減」であることに違和感がある。 ・自分たちが仕事に対して一生懸命に取り組み、米原市に対する帰属意識が高まるような内容がいいと思う。例えば、職員の離職率をゼロにするなどを目標にするのはどうか。 ・職員の意気込みが伝わるような進捗管理指標がいいと思う。 ・13ページ「部局別未来投資枠の導入」について、部局を横断した取組の推進や、新しいことをやることはいいことだと思う。 ・一つの部局だけで完結できることは減少している。部局を跨いだ事業への投資が進むと、変革が進んでいき、米原市ならではのものになると思う。 ・計画を立てて、行政経営改革推進担当課が職員に働きかける必要がある。

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5年間の中で一生懸命、失敗事例を作り、失敗事例を共有することが重要。外部にも発信していくべきである。 ・ 最近ではふるさと納税の話題が多いが、米原市のふるさと納税について、ピンとくるものがない。 ・ 例えば宮崎県では、ふるさと納税のお金で移住者を呼び込んで、子どもを増やす施策を行っている。 ・ 他自治体の取組事例で、健康寿命を伸ばすことを目的に、既存アプリを活用した事業がある。健康寿命が伸びることで、国民健康保険や介護保険の利用率が下がれば、自治体の負担も小さくなり、市民ともウィンウィンになると思う。 ・ 最近、彦根市長が石丸元安芸高田市長と対談され、YouTube に上がっている。その視聴者は15万人もいた。兵庫県知事の百条委員会は、ライブで1万人が視聴していた。また、彦根市のYouTube チャンネルは登録者が4万6千人いるが、米原市は、登録者が2940人しかいない。 ・ 著名人を活用して、米原市のPRをすると、注目も集まるのではないかな。
委員 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 9ページ「行政経営改革プランの体系」の図について、基本方針間をつなぐ矢印の意味は何か。 <p>→基本方針それぞれが有機的に繋がることをイメージしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 反対向きの矢印もあってもいいのかなと思った。 ・ 10ページ「業務の改革」の進捗管理指標「市民意識調査における「行財政改革の推進」に関する満足度」は、他のものに変えた方がいい。この進捗管理指標は、取組の成果をそのまま表すものではない。仮に満足度が上がったとしても、取組が進んだとは必ずしも言えない。また、この進捗管理指標は本プラン全体に関する満足度だと思う。 ・ 18ページ「データ利活用の推進と情報保護」の進捗管理指標である「デジタル庁推奨のオープンデータ数」について、5年間で13件というのは、目標としては低すぎるのではないかな。 ・ 推進項目ごとに進捗管理指標が一つではなくてもいいのではないかな。推進項目の結果が反映できないこともあり得るので、複数の推進項目を立てるといえることがあってもいいのではないかな。

(座長)	<p>→総合計画を策定する際、全事務事業の事業評価シートを作り、進捗を管理するのが基本である。そこに活動指標と成果指標を設定する。総合計画に掲載する指標の中から、代表的な指標を抽出したというのが、今回の指標類である。市はあえて、行政経営改革プランに掲載する進捗管理指標を絞ったということである。</p>
座長	<ul style="list-style-type: none"> ・業務の棚卸し、業務量の調査をして、この事業についてはDX化するから、人員を削減できる等の論理が必要。 ・「財政の健全化」は、5ページ「基本理念」に記載した方がいいと思う。 ・次期総合計画を作成するときに、それぞれの事務事業評価シートを作り、それぞれについて考える。そしてそれが人事、予算に反映されているかを検証することが必要である。PDCAサイクルをしっかりと回すことが、組織風土、職員意識改革に繋がる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・13ページ「部局別未来投資枠の導入」について、どのような背景から決めたのか。また、部局別未来投資枠を導入することでどのような効果があるのか。
(事務局)	<p>→現状、予算については財政部局による一件審査を行っており、職員が企画した事業も、結果がすぐに出ないものは財政部局の審査を通過しづらい。通過しないことにより職員のモチベーションは低下するので、自分たちが事業を考えて、生み出すことができる仕組みをつくることで、職員のモチベーション向上を期待している。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・「部局別未来投資枠」という表現は、市民にわかりにくいと思う。部局内でスクラップアンドビルドするなど、内容も丁寧に説明した方がいい。
委員 (事務局)	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業では予算があり、事業費用を削減することでも評価される。行政の事業ではすべて使い切るような意識があるように感じるが、実際はどうか。 <p>→入札等の考え方に倣うと、民間企業同様に、100%使い切ることがいいわけではない。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この後、パブリックコメントがあると思うので、本プランに様々な意見を反映出来たらいい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・策定後、どのように進捗管理をするのかを考えた上で、本プランを策定してほしい。 <p>4 今後の予定</p> <p><資料3に基づき、本プラン策定のスケジュールを共有></p> <p>5 閉会</p>

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 傍聴者：0人 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 一部公開または非公開とした理由 ()
会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示（根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示（根拠法令等：)
全部記録の有無	会議の全部記録 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 録音テープ記録 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
担当課	政策推進部 政策推進課